1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

「潮騒フラワーロード」に、
入寮者約50人が参加して今年も初夏の花を植えました。

2014
6

ASKA事件で問われる依存症問題の本質

梅雨空の不安定な天気が続きますが、皆様お変わりありませんか。今回はメディアを賑わした人気ミュージシャン「チャゲ&アスカ」のASKA覚醒剤事件を考えます。この問題では私も何度かテレビ取材を受けました。世間では「また芸能人の薬物事件か」とうんざりだと思います。社会的な影響力を持つ人気商売の悲哀を感じさせますが、彼はアディクト（依存症者）としては特別な存在ではありません。メディアは悪人のイメージを強調しますが、薬物履歴からすれば重症のアディクトです。依存症は「否認の病」ですから、彼が滑稽とも思える言い訳で罪を逃れようとする姿は、私にはよく分かります。一部週刊誌によれば、家族は狂っていく状況を見かねて、治療施設への入所も考えたといいます。周囲の芸能関係者が躊躇して止めたのかもしれませんが、もう少し早くダルクにつながっていればと悔しい限りです。

彼が薬物問題でつまづいたことは不幸ですが、その失敗を経験として生かせない、この国の硬直した司法制度と社会の依存症への無理解も問題です。もういいかげん、当事者への厳罰化と隔離政策が「無力」であることを知るべきです。依存症という病魔は人間の魂を根こそぎ奪います。私も世界で一番愛おしい娘たちを失ってもなお、覚醒剤とアルコールをやめられませんでした。この国では残念ながら依存症者は犯罪者でしかなく罰を与えるだけで、長く福祉や医療との連携が無視されてきました。今でも裁判で当事者は「もう2度と手を出しません」と誓います。その言葉がいかに空しいかは、本人はもちろん弁護士や検察官も、裁判官だって本音では感じているはずです。この「反省裁判」によって極めて形式的に量刑が決められ、受刑生活を終えて娑婆に戻ればまた元の木阿弥です。薬物の再使用によって困難な社会復帰がますます絶望的になります。疲弊する家族は愛情と看護力が求められ、より世間から孤立していきます。当事者には自己責任による「更生」が促され、ますます回復の希望から遠ざかるのがこの国の薬物問題をめぐる現実です。

しかし、ここに来て国もやっと重い腰を上げ、将来のドラッグコート（薬物事犯裁判所）をにらんだ刑の一部執行猶予制度を導入し、米国のように治療・回復施設につなげる現実的な政策へとシフトしつつあります。鬼の首を取ったように、ここぞとばかりにASKAバッシング報道を垂れ流すワイドショー番組でも、ほんの一部ですが「根本にある依存症の治療を」と主張するコメンテーターがいたようです。来年で30周年を迎えるダルクの歴史は、少しずつこの国の依存症問題に対する閉鎖的な扉を開け始めたようです。この国が本当に再犯率の高さに危機感を抱くなら、あるいは本音で違法薬物からの社会防衛を考えるなら、「ダメ。絶対。」の薬物乱用防止に掛ける巨額な公費の一部でもいいから、専門の治療・回復センター設置に使ってほしいものです。（センター長 栗原 豊）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

水郷潮来——あやめまつり

女性メンバーが見学

女性ハウス施設長ルミさんと▶女性メンバー

水郷潮来あやめまつりに参加した女性メンバー

潮騒JTCの女性メンバーが6月18日、潮来市の水郷潮来あやめ園で開かれている「第63回水郷潮来あやめまつり」に行って来ました。あやめといえば潮来、潮来といえばあやめ。日本のあやめまつりの元祖的存在ですが、実は潮来のあやめ園で咲いているのはアヤメではなく、約500種100万株のハナショウブ（花菖蒲）です。アヤメは乾いた土に根を生やし、水に浸かった土に生えるのはショウブです。潮来ではハナショウブのことを「あやめ」と呼んでいるようです。

期間中は園内に架けられた橋の上から、白、紫、黄など色とりどりの花が楽しめます。各種イベントも盛んで毎日、手漕ぎの「ろ舟」遊覧船を運航しており、水・土・日曜には白無垢姿の花嫁さんがろ舟に乗って花婿の元へ向かう「嫁入り舟」が実施されています。今年はLEDの光の玉約5,000個を前川に浮かべて夜間のライトアップが実施されています。この日も大勢の観光客があやめの花や嫁入り舟の風情を楽しんでいました。潮来市は鹿嶋市の隣とあって潮騒JTCでは毎年見学を企画していますが、今年はスケジュールの都合で男性メンバーは訪れることができませんでした。

感想文　あやめ祭

初めて「潮来花嫁さん」を見て良い思い出に

潮来のあやめ祭りで舟に乗りました。舟がほかの舟とぶつかり、川べりに衝突するハプニングもありましたが、とても気持ち良かったです。あやめの花が満開で、香りがとても良くきれいでした。偶然に「潮来花嫁さん」に出くわし、花嫁さんが舟に乗ってお婿さんの所へ行くところを見ることができました。花嫁さんがきれいで、初めて観たのでとても感動しました。花嫁さんの友達が「こういう結婚をしたかった」と羨ましそうでした。聞けば彼女はウエディングドレスしか着ていないから、着物に憧れていたそうです。この花嫁さんも「着物で舟に乗って結婚式をしたい」と、潮来花嫁さんに応募したそうです。きっと一生の思い出になることでしょう。私も良い思い出になりました。（イルカ）

薬を使っていない楽しく幸せな一日でした

曇りがちの天気でしたが、朝から潮来市にある「あやめまつり」であやめを観てきました。生まれて初めて舟に乗ったり、あやめの花を観たり…、薬を使っていた時には花を見ても何の花だか分かりませんでしたが、あやめの花がこんなにも大きくきれいだとは知りませんでした。舟は川を約30分かけて公園の周りや古い家屋などを巡りましたが、ドブ臭い臭いもしました。沢山の人が舟に乗ろうと順番を待っていました。お腹が空いたのでつきたてのお餅で、きな粉餅と大根餅を食べました。写真を撮っていたら、「潮来花嫁さん」が来て皆に祝福されて見送られていました。私も幸せな結婚がしたいです。その後に昼食で食べたテンプラ、お寿司、ディナーがとても美味しかったです。この日は、私にとって薬を使っていない楽しく幸せな一日でした。これからも施設でいろいろな所に行って、楽しい経験をしたいです。（ココ）

心に“うるおい”ができた一日でした

小学生の頃あやめ祭りに連れて行ってもらったことがありますが、平日なのに人混みがすごく、様々なお店が並んで賑やかでした。あじさいの咲く川辺を舟に乗って見物し、その後に咲くあやめ達を鑑賞しましたが、舟上からのながめは格別でした。花嫁行列が素晴らしかったです。俵と長持を乗せた舟に花嫁とそのご両親が乗り、花婿の待つ場所まで行く「花嫁舟」を観られたのもラッキーでした。食事も美味しい物をお腹いっぱい食べられて大満足でした。人ってそういう時に幸福を感じるんですよね。心に“うるおい”ができた一日でした。（しま）

幼い頃に両親と渡し船に乗った思い出の地

厚い雨雲が垂れ込める中、潮来のあやめまつりに行きました。ここは、私がまだ幼い頃　両親に連れられ一緒に渡し船に乗った思い出の地です。その時、女性の船頭さんが水中に落ちるというハプニングがあり、いっそう思い出に残っています。今は亡き母と舟の上で草餅をほおばった写真がとても良い思い出です。こういった様々な思い出が施設のプログラムによって思い起こさせていただく事に感謝します。潮来のあやめ達も元気に咲き誇っており、自分もすがすがしい気分を味わうことができ、梅雨空も吹き飛んだ様な一日でした。（レイコ）

何時かいい人と結婚できたらいいな

あやめ祭りに行きました。紫と黄色のあやめがとてもきれいでした。お昼頃には花嫁さんを見ることができ、あやめの花と花嫁さんがとても合っていて、風情ある結婚式だと思いました。舟にも乗ることができて、気持ち良かったです。私も何時かいい人と結婚できたらいいな、と思いました。（あやめ）

ファイザープロジェクト
就労支援実践講座

先取の施設運営で行政の信頼を得る

今年４回目の潮騒ファイザープロジェクト就労支援実践講座が5月23日、鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれ、NPO法人・栃木ダルク代表の栗坪千明さん（46）が講師を務めました。ダルク第2世代リーダーの一人として活躍中の栗坪さんは、薬物依存症問題でのコメントなどでテレビ出演も多いほか、全国ダルクの中で最も行政からの信頼が厚く、各種委員の委嘱を受けるなど活躍中の人です。時代を先取りした先進的な施設運営で、特に農業では潮騒JTCの手本となる優れた実践をしています。

栃木ダルクの栗坪千明代表

最初はシンナーに依存し暴走族で活動

冒頭、栗原センター長が栗坪さんと初めて会った時のエピソードを披露。かつて鹿島ダルクのスタッフ研修で、栗原さんが結城市で開かれた自助グループの会合に参加した際に、初対面の栗坪さんから大きな衝撃を受けたそうです。「顔だちやスタイル、服装、話し方…どれをとっても自分たちとは違っていた。ああこれが回復なんだ。しっかりリハビリすれば自分もこんな風に立派になれるんだ」と勇気をもらい、栗坪さんを密かな回復モデルとして目標にしたことを明かしました。

栗坪さんは講演の前半で生い立ちや薬物依存となった経緯を話しました。栗坪さんは1968年、宇都宮市生まれ。比較的裕福な家庭の一人っ子として育ち、中学の頃から躾や勉強で厳しい家庭環境に反発します。不良仲間とつるむようになり、16歳ごろからシンナーに依存して暴走族で活動します。高校を卒業して間もなく逮捕されますが、その後は暴走族から離れて都内の建築設計専門学校に進学。20歳で覚醒剤を覚えたものの卒業し、帰郷して1級建築士事務所に5年間務めます。

一度もスリップせずクリーンは17年

建築デザイナーとして仕事に忙殺される日々でしたが、バブル崩壊後は仕事がなくなり、再び覚醒剤への依存が激しくなります。半年もたたずに200万円の貯金がなくなり、結婚予定の彼女も去ります。仕事も友人も信用も何もかも失い、精神科病院を経て1997年に28歳で茨城ダルクにつながり、以後は一度もスリップせずに順調に回復してクリーンが17年間続いています。

茨城ダルクではミーティング中心の生活でしたが、栗坪さんは仙台ダルクを経て寮長や施設長代理を務め、岩井喜代仁代表の特命を受け社会福祉法人の申請担当となります。毎週、結城市と水戸市の県庁を往復するなど苦労の末に、ダルクでは初めて社会福祉法人化を実現。法人認可はクリアしましたが、地元の土地改良区が排水を認めないため、残念ながら法人の建物は今も建てられないでいます。

その一方で心理学を学ぶために、栗坪さんは通信制大学に入学しピアカウンセリングを勉強するなど人一倍の努力家です。これに刺激を受け、茨城ダルクでは高校中退組が再度、通信制高校で学んだり、大学に進学するケースが出ています。栗坪さんは2003年に那須に施設が開設されると責任者となり、その後は宇都宮市に本格的ダルク施設をつくり、代表として独自の施設運営に励んでいます。

ダルクは僕自身の回復のために必要だった

この日の実践講座では途中、脱法ハーブ依存の栃木ダルク入寮者が体験談を話した後、後半に再び栗坪さんが栃木ダルクの歩みや就労に向けての課題などを話しました。

栗坪さんは「もともと栃木ダルクは僕自身の回復のために必要だった」と振り返りました。生来、生真面目に物事に取り組み、人間関係も不得手だけにミーティングや12ステップだけでなく、これをフォローする適切なカウンセリングやプログラムが必要だったと考えたようです。ハード面では入寮型から始まり、通所型の施設や社会復帰をにらんだ農場を備えるまでになり、さらに施設が少なく潜在ニーズの高い女性専用施設もオープンさせました。

結果的に栃木ダルクは自己完結型の流れとなり、施設の拡充と並行して施設内での活動を支えるプログラムも充実させています。米国の治療共同体での研修を経て、断薬期から社会復帰までをにらんだ5段階のステージを持つプログラムを導入しているほか、09年からは栃木県薬務課とも連携して、薬物使用の初犯者に感情や思考をコントロールする認知行動療法も導入し、効果を上げました。

栗坪さんは「やっと銀行の融資を受けて建物を入手できるまでになったが、まだまだクリアすべき課題は多い。依存症の回復とは何か、僕たちが就労するとは何か、そうした原点の問いを忘れずに、時代が求める方向に向かって今後も地道に努力していきたい」と結びました。

講演の半ばには脱法ハーブ依存症の男性も体験メッセージ

information

それぞれの自立に向けて
響け潮騒の魂！

潮騒フォーラムのテーマが決定！

潮騒ジョブトレーニングセンター９周年フォーラムは12月7（日）午後1~5時、前年と同じ鹿嶋勤労文化会館（鹿嶋市宮中）で実施することをお知らせしましたが、フォーラムテーマが「それぞれの自立に向けて~響け、潮騒の魂！」と決まりました。ファイザー社による助成最終年（3年目）として現在、農業を主体にして取り組んでいる「潮騒ファイザープロジェクト」の飛躍に向けた決意を込め、自立への思いを表したものです。依存症者の就労環境は絶望的なほど厳しいですが、この3年間の経験と実践をしっかりと自立への糧としようとの思いをテーマに託しました。

内容はエイサー（鹿嶋琉球太鼓）と地元和太鼓（鹿島灘太鼓）の演舞、それに潮騒農業のまとめの2本立てです。昨年に続き潮騒と交流のある首都圏の主要ダルクの応援を得てエイサーを盛り上げ、今年は和太鼓でもステージを沸かせます。前号で紹介した実力派の地元和太鼓グループの指導で、入寮者有志が取り組む和太鼓の練習も本格化しています。後半は潮騒ファイザープロジェクトの総まとめとして、就労支援事業の中心となる潮騒農業にスポットを当てます。12月の潮騒フォーラムにご期待ください。（勝）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

今月のイベント参加報告

こんなイベントに参加しました、というご報告。

餅120キロをつき鹿島神宮に奉納
大鳥居完成で復興の撒き餅に貢献

木造で完成した鹿島神宮の大鳥居

◀記念の餅まき風景

▲応援に駆けつけた横浜ダルクスタッフ

鹿嶋市の「顔」とも言うべき鹿島神宮の大鳥居が木造で再建されました。6月1日には竣工（しゅんこう）祭が開かれ、神事などが執り行われましたが、潮騒JTCも祝賀に花を添える紅白の餅づくりで貢献し、栗原センター長の代理として実兄の栗原稔さん（事務局長）らが同日、鳥居わき駐車場の特設会場で行われた復興の餅撒きでイベントを盛り上げました。

鹿島神宮の大鳥居は2011年3・11東日本大震災で倒壊。潮騒JTCでも本部施設建物が結構な被害を受け、その補修などで今も重い経費負担を強いられています。以前の鳥居は1968（昭和43）年に明治維新後百年の記念として笠間市産の御影石で造られました。御影石製としては全国最大でしたが、3・11当日の2度の揺れで根元から倒れて崩壊し、その痛々しい光景はメディアでも大きく報道されました。それだけに倒壊してから約3年を経て大鳥居が再建されたことは、大震災からの復興を象徴するものです。近くにあるデイケアで回復活動をしている潮騒の仲間たちにとっても意義深いことです。鹿島神宮の鎮守の森は健康づくりで大切な散歩コースにもなっており、入寮者も入り口に鎮座する大鳥居の完成を心待ちにしていました。

再建された大鳥居は前の石鳥居と同じく高さ約10m、横幅は最大約15m。境内の深い森から樹齢250～600年の天然杉4本を切り出して造られました。御影石の調達が困難とされたことから木造での再建となり、柱の基部には倒壊した御影石が使われています。鳥居の形式は伝統の「鹿島鳥居型」で、約2千人の氏子らから集められた寄付金が建築費に充てられ、総工費は約8千万円だそうです。式典では、神職が祝詞を読み上げ、大鳥居を越えるように鏑矢（かぶらや）を放ち、巫女による舞の奉納がありました。くぐり初めでは、柱に渡された荒縄を居合切りする儀式が行われ、参加者らが次々に大鳥居をくぐり歩きました。

記念の餅撒きは式典と午後の復興イベントの2回行われました。潮騒JTCが大鳥居完成の餅撒きイベントに参加するきっかけは、今年正月、施設恒例の初詣での際に境内で行われていた餅つきを偶然に手伝ったことが縁です。お年寄りが多く、餅つきに苦労していたことから若い入寮者らが「うちではよくやっているので得意ですよ」と手伝い、たちまちつきあげました。これが下地になって今回、付き合いのある氏子らを通して丸餅づくりのオファーがありました。全部で30俵分の餅のうち潮騒は2俵分（120kg）を受け持ち、奉納しました。餅つきには横浜ダルクのメンバーも参加し、1日がかりでした。栗原センター長は「鹿島神宮の晴れの舞台に、こうした形で地域貢献できることは願ってもないこと。潮騒はまだまだ地元で一人前に認められた訳ではないが、機会があればマンパワーを生かして地域の盛り上げに力を注ぎたい。鹿嶋市を象徴し市民の心の故郷でもある鹿島神宮とのつながりができたことは私たちにも誇りで、回復に向けて励みになる」と話していました。

「潮騒フラワーロード」に花植え
マリーゴールドやサルビアなど3600株を

鹿嶋市宮津台の潮騒JTC本部（下津ナイトケア）施設前の市道（下津海岸通り）を初夏の花で飾り、近所の人たちや通行人、道行くドライバーらの心をなごませようと、今年も入寮者らが色鮮やかな3種類の花を沿道の花壇に植えました。

「自分たちの手で施設前の通りを美しい花で飾り、育てることで地域活性化や潤いある市民生活に貢献できたら」と栗原センター長が提唱し、3年前から施設のプログラム活動の一環として取り組まれています。施設前と向かい側の両歩道を約600mにわたり「潮騒フラワーロード」と名付け、市の協力を得て初夏の花を定植し、自主管理しています。

今年も6月21日、梅雨の合間を縫って入寮者約50人が参加して、市から寄贈を受けたマリーゴールド（黄色、橙色）とサルビア（赤色）、コキアの3種類合計約3600株を手分けして定植しました。参加者らは移植ごてを手に、汗だくになりながら数時間で定植作業を終え、これまで殺風景だった潮騒フラワーロードをカラフルな花で美しく飾りました。今後、花壇の水やりや除草など夏場の管理に気を配ります。

栗原センター長は「私たちは薬物やアルコール、ギャンブルにのめりこんで人間としての感情を失ってきた。すっかり心がすさんでしまい、自然を楽しむ余裕を失っている人が多いだけに、美しい花を見て美しいと感じる当たり前の心を取り戻す意味からも、自分たちが取り組むフラワーロード事業は意義がある」と力説し、花づくりを通して地元住民の依存症理解を深めることに期待を寄せています。

入寮者約50人が参加して実施された花植え

JAしおさい鹿嶋農産物直売所のメロン祭りに協力

潮騒農場で生産した農業生産物が販売されている「JAしおさい鹿嶋農産物直売所」（鹿嶋市神向寺）で6月7～8日の2日間、初夏の味覚として人気のメロン祭りが開かれました。潮騒JTCではエイサー（鹿嶋琉球太鼓）の演舞で祭りを盛り上げ、農業自然隊メンバーらがメロン販売に協力しました。初日は梅雨入りで雨に降られましたが、次第に回復し翌日は晴れの天気となって多くの来場者で賑わいました。

茨城県はメロンの収穫量が全国一で、隣の鉾田市と鹿嶋市が主産地です。JAによれば今年は4月以降、例年以上に高温だったことにより糖度抜群のメロンが出来上がり、販売コーナーでは食味が安定した、糖度が高いタカミメロンを中心に来場者が次々に買い求めたとのことです。メロンの試食や初挑戦のメロン・ソフトクリームが子どもからお年寄りまで大好評だったようです。8日は錦織孝一鹿嶋市長も来場し、来場者と一緒に鹿嶋の初夏の味覚を味わいました。

メロン祭りには錦織市長（右から2人目）も参加、左端は店長の杉山さん

カツミ感想文

消費者に提供する心得を会得できた

私は、過去に依存症に病んで施設につながった経緯があります。依存性のある自分自身に、ずいぶん苦しんだものです。今は潮騒JTCで自己改善に向け、トレーニングをする日々です。私は現在、仕事プログラムとして就労支援事業に位置付けられた潮騒農業に携わっています。素人ながら農作業を続ける傍ら、JAしおさい鹿嶋農産物直売所と交友関係を持つ事が出来ました。これも私達がプログラムを通して土地の開墾から土づ

こんなイベントに参加しました、というご報告。

くり、各種の種や苗を植え、育てた野菜、お米が実り、結果を出したことがJAの信用につながり、提携できるようになったのだと思います。

とにかく自分たちで作った野菜が市場（直売所）に出ている。それも鹿嶋市内だけでなく他県からも、求めに来訪される。その思いを直売所で実際に肌で感じることができました。また一般消費者の方達に商品を提供するという直接販売を通して、社会で必要な最低限のマナーも自覚できました。今回メロン祭りに参加して、野菜づくりにとどまらず、それを消費者に提供することの心得を、なんとなく会得できた気がします。メロン祭りに参加できたことは私にとって大きな喜びです。ありがとうございました。（カツミ）

ノボル 感想文

メロンを試食し、仲間たちのエイサー演舞に感動

県立カシマサッカースタジアムすぐ側の国道51号沿いにあるJA直売所で開かれたメロン祭りに参加しました。2日間とも朝から雨で正直イヤだったです。手伝いの内容は、来場者が買い求めたメロン等を車まで運ぶことでした。直売所の駐車場は目の前なので楽なのですが、ちょっと離れたカシマスポーツセンター駐車場のときは、雨も降っていたので正直キツかったです。面白いことに、２日間とも午前中はお客さんがいっぱい来るのに、午後はほとんど来客がない状態でボーっとしてました。手伝いの役得かもしれませんが、試食のメロンにありつきました。これまで自分はあまりメロンというものを買うことがなかったので、ここぞとばかりに食べまくりました。やっぱり茨城のメロンは美味しかったです!!

今、自分は作業隊の一員なのですが、隊の中にエイサー(琉球太鼓)をやっている仲間が6人います。ふだんは一緒に農作業をしている仲間たちが、琉球太鼓の時も一生懸命に演舞しているのを見て、とても感動しました。その躍動感は正直すごい！と思いました。本当は雨降りの日は大っ嫌いなのですが、この様なイベントに参加をして、仲間たちと感動を分かち合えたことがとても良かったです。機会があれば今後も参加しようと思います。（ノボル）

カイジ 感想文

病院フォーラムとメロン祭りにカメラマン役で同行

今回は聖明病院フォーラムに施設スタッフカメラマン役で同行し、仲間達の姿をファインダーを通して記録しました。同時に、我が心のページも増やす事が出来ました。当日プログラムでは和太鼓の演舞があり、自分達も潮騒において和太鼓とのかかわりがあるので、音を一つにというところではとても参考になりました。施設を超えて仲間たちの回復への思いが太鼓の響きとなり、さらにその音が一つになって、人々の心に感動となって届くのだ、と思い知りました。改めて熱い思いが込み上げました！

そして翌日は、地元のJAしおさい鹿嶋農産物直売所のメロン祭りでした。我が作業隊の精鋭達がかかわっているだけに、こちらも仲間たちの表情をベストショットでカメラに収めようと頑張りました。メロン祭りでは地域の人達との関わり合いを深めつつ、エイサー隊の演舞も日々たくましく、イベントの添え物にとどまらないレベルに成長している印象を持ちました。自分も和太鼓メンバーだけに、改めて負けていられないと思いました。さらに、依存症にも負けてたまるか! と勇気をもらいました。ありがとうございました。この感謝の思いを、これからも心から大切にします！（カイジ）

祭りの盛り上げに一役買った潮騒エイサー隊

◀メロン販売のレジを手伝う潮騒メンバーふくちゃん（左）

FMかしまのインタビューを▶受けるヒトシさん

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

聖明病院フォーラムに参加して

潮騒JTCの仲間たちと６月７日、静岡県富士市の富士山裾野にある聖明病院（近藤直樹院長）へ行ってきました。私は初めて目の前にある富士山を見ました。残念ながら当日は薄雲がかかり、綺麗な富士山を見れずに残念でした。病院ではフォーラムが行われ、各地のダルク施設の紹介や和太鼓、エイサーが披露されました。和太鼓の演舞はとても迫力があり感動しました。エイサーは沖縄の音楽と太鼓の音色に癒されました。病院に入院されている方達も太鼓の演舞を楽しんで聴いておられたようで、太鼓は老若男女いろんな人に感動を与えるので素晴らしいなと思いました。私達が潮騒で行っている太鼓プログラムも、アディクト仲間に何かしら良い影響を与えてくれると思います。また、女性の仲間も新たに加わりました。私はスタッフ職員になり、自分の回復、自立の出来るプログラムの実践のため、みんなの力を借りて仲間と共に楽しく生活していきたいです。（あやめ）

※聖明病院はアルコールや薬物依存症の専門治療病院です。最近、潮騒に入寮する患者も増えています。今後も連携していけたらと考えています。

聖明病院フォーラムで演舞する潮騒エイサー隊

いつも笑顔が素敵な川崎ダルクのコロモちゃん

ピア岐阜10周年フォーラムに参加して

魂の奥に響くスピリチュアルな目覚めを体験

薬物依存症者を身内に持つ家族や友人たちの自助グループ「ピア岐阜」が５月31日、岐阜市内のホテルで発足10周年の記念フォーラムを開きました。ピア岐阜には初めて参加したのですが、とても楽しかったです。関係者の方のお話の後、日本ダルクの近藤恒夫さんが講演して下さったのですが、お話が短かったのでもう少し聞きたかったです。日本ダルクアウェイクニングハウスの仲間によるエイサー演舞にはびっくり、なんと獅子が出てきたのです。獅子の衣装は仲間が一本一本手縫いで作ったと聞き、演舞と共にいたく感動しました。

私が一番感動したのはミュージシャン、AKIRA（杉山あきら）さんのステージ。歌は初めて聞いたのですが、私の頭と心にズッキュンと刺さりました。魂の奥深くに響き、改めて「神、愛、感謝、家族」へのスピリチュアルな目覚めを体験しました。聞きながら、涙と鼻水でヤバかったです。最後にはみんなで輪になって歌って会場が一体となり、無事終演。その後の懇親会にも参加してお腹もいっぱいになり、最後までミーティングで交流して来ました。

三重ダルクのチャイティーやアイスコーヒーも美味しかったですよ！色んな事にトライして自立や回復に役立つ行動は、ぜひ潮騒でも取り入れていきたいと思います。色んな事をやってみて良い方向性につながれば、レッツゴー・トライですね。岐阜ダルク女性ハウスのヨウコさんのメッセージは毎回エールを送りたくなります。鹿嶋でも応援してますよ！

そして岐阜を満喫するために長良川の温泉に浸り、次の日は岐阜城にも登りました。良い天気でしたが34度まで気温があがりました。ロープウエイで山を登り、その先は険しい山道をお城までゆっくり登りました。潮騒のユタカさん（センター長）は俳句手帳を片手に、すっかり俳人になりきってました。疲れては休みを繰り返し、ようやく山頂に辿り着いた私達でした。そこに聳え立つ高楼に登ってみると、信長と濃姫の肖像画が掲げられていました。窓からは若葉風が心地よく吹き込んできました。

そこから見下ろす下界はとても素晴らしい景色でした。ところが上りより下りの方が辛いのです。すっかり現実の回復プログラムに似ている事に気づかされましたが、とても楽しいセルフケアになりました。ピア岐阜の皆様、有意義な時間をありがとうございました。（ルミ）

北海道に縁を感じた ダルクフォーラム参加でした

6月21日に開かれた「第10回NPO法人･北海道ダルクフォーラム」に参加して来ました。今年になって2度目の北海道です。5月に浦河町の「べてるの家」を視察研修に訪れたばかりなので、僕にとって北海道は何か縁のある土地なのかな、と思っています。北海道ダルクのフォーラム参加は2回目でした。過去に潮騒JTCにも在籍した“ヤス”こと「銀次郎」が同ダルクを去年、円満退寮して社会に出て働いている姿に勇気をもらいました。自分でも気づかないうちに年々アディクト仲間の顔と名前が増えていき、あちこちのフォーラムなどで、向こうから「ようヒトシ、元気だったか！」と声を掛けられるようになっていることに喜びを感じます。

今回のフォーラムは節目となる第10回で、テーマは「回復してゆく時」。会場は札幌市の北海道クリスチャンセンターでした。当日のプログラムでは、北海道ダルクの歩みにかかわりのある重要な人たちが発足から現在までを、それぞれの立場から振り返りました。10年前の発足時を知る地元カトリック教会の場崎神父の話に続き、近藤恒夫さん（日本ダルク代表）、山家研司さん（旭山病院長）、田辺等さん（北海道立精神保健福祉センター長）によるトークセッションは、自分が依存症の回復施設で働いていて良かったなと気付かせてくれる内容で、とても参考になりました。

実は今、自分が取り組んでいるRD（リカバリーダイナミックス）の勉強会でステップ4、5をやったばかりなので、自分の「スポンサー」が必要でした。以前はスポンサーがいたのですが、お互いの状況で解除して同じ目線でやっていこうとなり、1年半ぐらいいない状態だったのです。そこで今回、北海道ダルク施設長のトオル（森亨）さんにお願いしてスポンサーになってもらいました。地理的なハンディから少し不安になりましたが、そんな不安を抱く間もなくハグしてくれて嬉しかったです。その際に「自分の弱さを強さに変えるには、どうしたらいいんですかね？」と尋ねると、トオルさんは「弱いままでいいと思うよ、無理に強くならなくても。弱いから変えられるんだと思うな。そういう自分なんだと認めれば」と。そんな飾らない姿に、自分もこういう人に近づけたらいいなと思いました。多分北海道は自分にとって「何か」ではなく「縁がある」場所なのです。そう感じたフォーラムでした。（ヒトシ）

トークセッションでは近藤恒夫さんの師である故ロイ神父も遺影で参加しました

ロイ神父の遺影と記念撮影するセンター長

北海道ダルクフォーラムに参加したメンバーのスナップ写真

北海道観光も楽しみました

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渇望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通していますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。受刑者の皆さん、めげずに頑張ってください。（ユタカ）

手紙を読んだ時、涙が出るほど嬉しかった

手元に届いた潮騒通信をじっくり読ませて頂きました。色々な取り組みをされてる事にびっくりしました。農場など自然の中で体を動かし、そこで取れた物を食べる。今一番夢見る生活です。筑波山ハイキング登山などのイベントも参加してる人達の楽しそうな顔、明るい笑顔を見ました。私にも、そんな顔に戻れる日が来てほしいです。「再び歩き出す」という最初の言葉、本当に嬉しかったです。

私は今回の服役ですべてを失いました。内妻と別れ、子供とも会えなくなり、毎日辛く苦しい時を過ごしました。また、出所後の夢も希望も抱けずにいました。もう私に道は無いのでは、と本気で思っていました。情けないです。だから手紙を読んだ時、涙が出るほど嬉しかったです。私は手紙に書きましたが、2度とクスリに近づかず、手も出さず生活していきたいと思っています。2度とシャブ中などと、人に馬鹿にされるような生活に戻りたくないです。その為に一生懸命頑張ります。時間が掛かるのも覚悟しています。皆様の仲間に加えてもらえればと思います。よろしくお願いします。

（福岡県　F・S）

情報処理技術者試験になんとか無事に合格

先月中旬に情報処理技術者試験を受け、なんとか無事に合格する事が出来ました。凍えるような冬の厳しい寒さの中での勉強の日々は泣きたくなる程の長く辛い日々でしたが、今こうして振り返ってみれば、それはそれで中身の濃い充実した日々でした。気軽に申し込んだ職業訓練でもあり、自分のような者が合格できるとは思っていなかったので、運が良かったのでしょう。貴重な経験だった反面、覚えなくてはならない膨大な量に入所当初は及び腰になってしまい、もしかしたら失敗するかも知れないと不安にもなったものです。ですが、今回こうして難しい事に真剣に取り組む体験をし、必死になって頑張るのも悪くないものだと思い至り、それだけでも良い経験でした。

（岩手県　E・E）

薬を覚えて30年、自力ではやめられない

私は今年1月で60歳を迎え今回7回目の服役です。もう、いいかげん今後の余生の事を真剣に考えなければと思っており、今回の懲役を最後にしたいと思っているのですが、結局この年になるまで己の力ではどうする事も出来ませんでした。自分自身の無力さを素直に認め前向きに考えるように思っていたところ、ある人達から潮騒の栗原様の事を聞き、筆を取らせて頂いたのです。今回の事犯は覚せい剤とは全く異なるものですが、薬を覚えてから約30年間、やはり自分の力だけでは薬をやめる自信がありません。大変に厚かましいお願いとは思いますが、出所後そちらでお世話になりながら、今度こそこの懲役を最後にしたいと思っており、身元引受けの件をお願いしたいのです。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

（山梨県　U・K）

20歳から6回服役し、うち5回は薬物事犯

今回筆を取らせて頂きましたのは、私の現状を見兼ねた知人から、貴所を御紹介頂いたからです。私は今年41歳になりますが、20歳から服役を繰り返し、今回で6回目、うち5回が薬物事犯によるものです。このままでは人生を棒に振ってしまう、そんな危機感から貴所の力をお借りし、人生を軌道修正したい、というのが私の希望であり、本音なのです。

今回私は覚醒剤で1年10カ月の実刑判決を受け、現在服役中で満期日は来年10月です。知人によれば、貴所の方で身元引受人や生活保護の申請等、代行して頂けると教え聞きました。突然、こんなぶしつけな拙書を送り、失礼と思いましたが、私の要望に応じて頂けるでしょうか。

（北海道　M・T）

69歳になるので薬物は今回で終わりにしたい

私は69歳になるので、薬物は今回で終わりにしたいのです。そちらにお願いして、止めたいと思っているのですが、出所までそちらと手紙のやり取りが出来るのでしょうか？もし出来るのであれば身元引受け等もしていただけるのでしょうか。そうした場合はどのようにしたら良いか、教えていただきたいと思っております。まだ先の事ですが、一日も早く勤めを終えて社会人として生きていきたいのと、母が高齢なので安心させてあげたいので、必ず薬は止めると誓っております。そちらの都合もあるでしょうが、出てからの事が一番気にかかるので返事を戴けるとありがたいです。それと自分がこれからしなければいけない事とか、どうすれば良いか詳しく教えて下さい。

（東京都　Y・M）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

6月のお題　**向日葵**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.8

センター長　栗原 豊

「もはや自分が施設をつくるしかない」。施設運営をめぐる対立から一念発起し、鹿島ダルク（神栖市）を飛び出して隣町の鹿嶋市内で独立したものの、潮騒JTCの前進「鹿嶋潮騒ダルク」の船出は惨憺たるものだった。財力も支援者もノウハウもない無謀な挑戦だけに、決意が空回りした。肝心なミーティングがままならず、私を慕って一緒に独立した仲間たちが次々にスリップしていく中、私は運営資金の捻出や仲間たちとの共同生活をどう組み立てるかに心を砕いた。

追い込まれて余裕がなくなったが、神栖俳句会には断続的ながら足を運び、俳句作りだけは続けて投句を怠らなかった。秀句や佳作として神栖市の広報紙に自分の俳句が載り、八方塞がりの状況下でもヤル気につながった。しかし、忙しさは加速するばかり。時間的にも空間的にも句会の開かれる神栖市まで足を運ぶのが難しくなり、いつしか自然に足が遠のいていた。

そんな折、お世話になった前会長が高齢のために会長を辞し、新たに桐本石見氏（しおさい俳壇選者）が会長に就任した。この頃、忘れられない思い出がある。細々と俳句を作っていた私は作品を直接手渡そうと、神栖市にある病院で桐本会長と待ち合わせをした。冬のとても寒い日にもかかわらず、桐本氏はバイクでやって来られた。鹿嶋市に移ったことで、神栖市内の在住・在勤者という会員資格から外れた私が「続けてもいいですか?」と尋ねると、桐本氏は「大変でしょうが、頑張って続けてください」と励ましてくれた。桐本氏ら会員の温情で規約が緩められ、私は例外的に神栖俳句会に引き続き籍を置くことができた。

一方、施設運営ではスリップ続出の反省から原点に戻り、毎日の生活がミーティング中心となった。このため神栖俳句会にはほとんど出席できなくなっていたが、私にとって引き続き発表の場が保障されたことは大きく、ヤク中、アル中の私が、曲がりなりにも社会とのつながりができているという自信と誇りになった。もはや俳句作りは、私の生きがいであり精神的な支柱になっていた。（次号につづく）

向日葵も　駅の迎えや　里帰り

特選句

あやめ

今では地方の過疎化が進み無人駅なども多いがこの詠の里は何処だろうか、縁者や友人と共に向日葵の花も明るく迎えてくれる山間や海辺の田舎駅を彷彿して心の和む句です。ことに第三セクター化した路線は宣伝の為にも趣向を凝らした駅が多く地方の花や名物の宣伝が目立つ。

向日葵の　畑の中で　かくれんぼ

特選句

ヒロ

向日葵は北アメリカの原産で高さ二メートル花径三十センチにもなり黄色で太陽に似て日輪草、天竺葵などとも云う。この近くでは筑西市の百万本、中之条町に六十万本の畑けがあり、迷路探検、かくれんぼなどして遊ぶのも楽しく子供達の声が聞こえてくる様な句です。「向日葵に背丈ぬかるる子供達」も佳句。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

今月の秀逸句

向日葵の　黄色あでやか　下津浜

ミヤ

原句の下五を変えましたがこれで景の見える詠になり下津浜の青い海とのコントラストも明確で夏らしく思えます。畑の多くの向日葵も圧巻ですが田舎の庭先の数本の向日葵も風情があり心和みます。

向日葵や　背くらべ何時も　見下ろされ

かよ

子供達には始めのうちは勝つてる背丈も向日葵の花が咲く頃には何時も見上げる程で負けている。今では大人の背丈よりも高い向日葵もありそれらを含めて夏の思い出の微笑ましい句です。

海の日に　伸びよ開けよ　向日葵よ

イルカ

原句は少し変えましたがこれで植えた向日葵の育つを待つ子供らの思いの伝わる詠になりますし、また海辺の学校の花壇や生徒の声も彷彿する句になります。

公園の　子等に向日葵　ほほゑみて

あべ

俳句は出来るだけ季語が一つが良いので、原句の上五を変えましたがこれで花壇の向日葵が公園などで遊ぶ子等に微笑みかける様な思いの詠になり子等の元気な声も聞えます。

向日葵に　負けじと叩く　大太鼓

コバ

原句を少し変えましたがこれで真昼の向日葵の咲く庭や神社などで夏祭などの太鼓を打つ景が見えます。いまでは各種の催しで景気づけにも打つが夏の日にも向日葵に負けじと汗を流しながらの太鼓連の姿を彷彿する句です。

向日葵の　迷路さまよふ　畑かな

キコ

テレビなどでも見ますが向日葵畑に迷路を作り、花を観賞すると共に子供達の遊びも兼ねている。大人でも迷うほどの大きな畑もあり家族で楽しむの良い。和やかな声も彷彿する句です。

受刑者の句

章三郎

夏めくや老いの丸刈り理髪の日

句の作者の生活では理髪日なども決められていて希望の髪型に理髪できるのかも。夏を迎えて少しでも涼しくと思い丸刈りにしたのか実感の句です。「今日よりの老いの丸刈り夏初め」でも簡素な詠になります。

草いきれ息の詰まりし故郷かな

草いきれは夏草が日に灼かれてむせ返る様なことで息の詰まる思いもする、それに合わせて自分の境地も思いに込めた詠で俳諧の哀れの句でもあります。故郷は人によっては必ずしも良い思い出ばかりではないのも現実です。

佳作

向日葵のゴッホ教わる幼かな　シマ

向日葵の迷路解けたり花の向き　ユタカ

陽に向ふすがたの一途向日葵よ　レイコ

向日葵の夕日に向ふおじぎかな　じじい

空仰ぐ向日葵の如ポジティブに　石田

向日葵に思いおこすや子等の笑み　チャー

遠足の向日葵に声子供達　長吉

向日葵の絵画見たれば初夏思ふ　カート

天空の向日葵迷路仰ぐかな　オノ

向日葵と入道雲の良く似合ふ　ポチ

向日葵や海の陽を浴び伸びに伸ぶ　カツミ

向日葵や朝の日差しに背伸びせる　オガピョン

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～　「アディクトのトムです」 No.5

酒におぼれ借金が膨れ上がり仕事を失ってバーンアウト

えー、相変わらず回復していないトムの“非回復記”です。これを書き始めてから、自分の周りで起きる出来事が自身の回復の度合いを見せつけられているようで、本物になっていないことを実感させられる毎日です。今自分は鹿嶋市宮中のデイケアから離れ、海岸部の下津施設（ナイトケア）で自分を見つめるプログラムをしています。当初は焦りも嫉妬心もあり、かなり不安定な状態でした。自分への苛立ちが人に伝わり、結果的に暴力として自分に返ってくるということも経験しました。けれど、こんな時こそプログラムを信じることを机上だけではなく、実践しないといけないと感じています。

とはいいながら、やっていることは仲間と一緒にミーティングを含めたプログラムで、仲間の中でありのままの自分をさらけ出しています。パンツ一枚で下津海岸に飛び込んでみたり（仲間には犯罪だといわれてます。^.^;）とバカなことをやってます。そんな中で居場所を少しずつ見つけています。今自分があるのは、施設と仲間のおかげです。でなければ完全に終わってしまっていた、と今感じています。本当に感謝の二文字です。自分の状況の読めなさ・責任感の欠如・金銭感覚の欠如等、自分の病気の深さを思い知らされています。それを病気だと感じていなかったことも…。認めたら改善していかなければ…。「がんばれ、トム！」と自分に言い聞かせてます。

閑話休題。ここからは前回の続きです。配膳サービスの裏方仕事は毎日忙しく、相変わらず人間関係に不慣れな自分です。次第にストレスがたまり、やがて酒が中心の生活となってしまい、仕事の継続が困難になっていきました。目の前の空虚感を充たしてくれるのは酒と散財だけ。でも、この安心感は一時のものでした。借金は雪だるま式に膨れ上がり、仕事を失ったあたりで完全にバーンアウト。

後はお決まりのように、何をしても最後には酒でグズグズになるパターンです。どうにか元の正常な生活パターンを取り戻そうともがきましたが、ダメでした。どうしても酒に取り付かれてしまいます。少しずつ自分の周りから大事な物がなくなっていきました。そして自己嫌悪の繰り返しで長い時間を過ごしました。自助会を経て施設に繋がってもなかなか負の連鎖から解き放たれません。今もその繰り返しです。ただその中で見つけた仲間、それが何を意味しているのか、その答えを探しています。（次号に続く）

6月のバースデイ

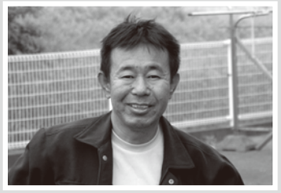
トン

作業隊で、歳の差をみせず
頑張ります！

ヒカル

年内には、
社会復帰したいと思います！

サダ坊



作業隊で頑張りたいです！

サカ

クリーンを伸ばして行きます！

トム

48才になりました！
アーさんアイラブユー♥

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU増刊通巻、第4843号

6月の行事予定

16日	新宿とまりぎアルコール問題相談業務
19・26日	R.D プログラム
21・22日	RSC 会議
21日	北海道ダルクフォーラム
21日	秋元病院メッセージ
22日	家族会
23日	誕生会
25日	船橋北病院ソフトボール親善試合
26日	映画会
27日	川崎ダルク10周年フォーラム（エイサー演舞）
28日	豊後荘病院メッセージ
29日	しおさいアディクションセミナー

7月の行事予定

2日	ファイザープロジェクト推進委員会
2日	鉢形公民館掃除
3日	俳句会
3・10日	R.D プログラム

献金を頂いた方（6月15日現在）

・坂西ミヤ 様　・吉川悦樹 様
・瀧建設 代表：瀧留八 様　・渡辺洋子 様

献品を頂いた方（6月15日現在）

・イルポートこぼり 様　・高橋ふく子 様
・髙木敦雄 様

今月も献金・献品をいただきました。
心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを
実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記

「潮騒通信は嘘だらけ。人権無視のひどい施設なのに、いいことばかり書いて世間を欺いている」— こうした悪意のある“でっちあげ”は看過できない。潮騒への「恨み」を吹聴しているのは施設内でトラブルを起こし、これ以上放置すると施設運営が危うくなるとして強制退寮させられた人たち ▼彼らは人一倍病気（依存症）が重く、心が荒（すさ）んでいる。自己肯定感や自尊感情が弱く、感情のコントロールや自分を律することが苦手だ。一度は潮騒に救いを求め、過剰な期待を持ってやって来たが、自分の弱さや問題に向き合うことができず、身勝手な不満を周囲にぶつけ、回復のレールに乗れないのを施設のせいにする ▼回復プログラムへの取り組みが弱いから、些細なことで仲間とぶつかり、怒りを爆発させる。施設に裏切られたという被害感情だけを増幅させるから厄介だ。これが暴力として発現されると、もう手におえない。時として物理的な強制力を行使せざるを得ない。結果、入寮時の誓約違反として強制退寮となる ▼吹けば飛ぶような零細施設だから、その気になれば潮騒を潰すのは簡単だ。危険な問題施設だと騒ぎ立て、地域の不安を煽ればいい。潮騒に悪感情を抱く連中を入寮させ、不満分子を増やして集団で反乱を起こすのも手だろう。外圧がなくても、施設内で「事件」が起きてメディア報道されればひとたまりもない ▼もとより潮騒は万能な施設ではない。むしろ他より入寮条件のハードルが低いため、多くの矛盾や困難を抱えている。当然、入寮者には不満もあるだろう。でも、冒頭のような不満はどこの施設に行っても解消されないだろう。この当事者たちは、自分の内なる「敵」に向き合うことを放棄しているから ▼ないものねだりかもしれないが、もう少し冷静になって不満の根源は他者や施設環境にあるのではなく、自分の欠損部分にこそあることに目を向けてほしい。依存症の世界では「過去と他人は変えられない、変えられるのは自分と未来だけ」なのだから。（市）

潮騒通信　どっこい生きてます！ 2014年6月号

Contents

P2 ASKA事件で問われる依存症問題の本質
P3 水郷潮来あやめまつり
P4 ファイザープロジェクト就労支援実践講座
栃木ダルクの栗坪千明代表
「先取の施設運営で行政の信頼を得る」
P6 今月のイベント参加報告
・餅120キロをつき鹿島神宮に奉納
P7 ・「潮騒フラワーロード」に花植え
・JAしおさい鹿嶋農産物直売所のメロン祭りに協力
P9 ・聖明病院フォーラムに参加して
・ピア岐阜10周年フォーラムに参加して
P10 ・北海道に縁を感じたダルクフォーラム参加でした
P11 受刑者からの手紙
P12 しおさい俳壇　6月「向日葵」
P14 どっこい私も生きてます！ ～我が回復記～

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39
E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回 8の日発行）2014年6月21日発行　SSKU 増刊通巻、第4843号

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　**定価 100 円**（会費に含む）　1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 6 月 21 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4843 号